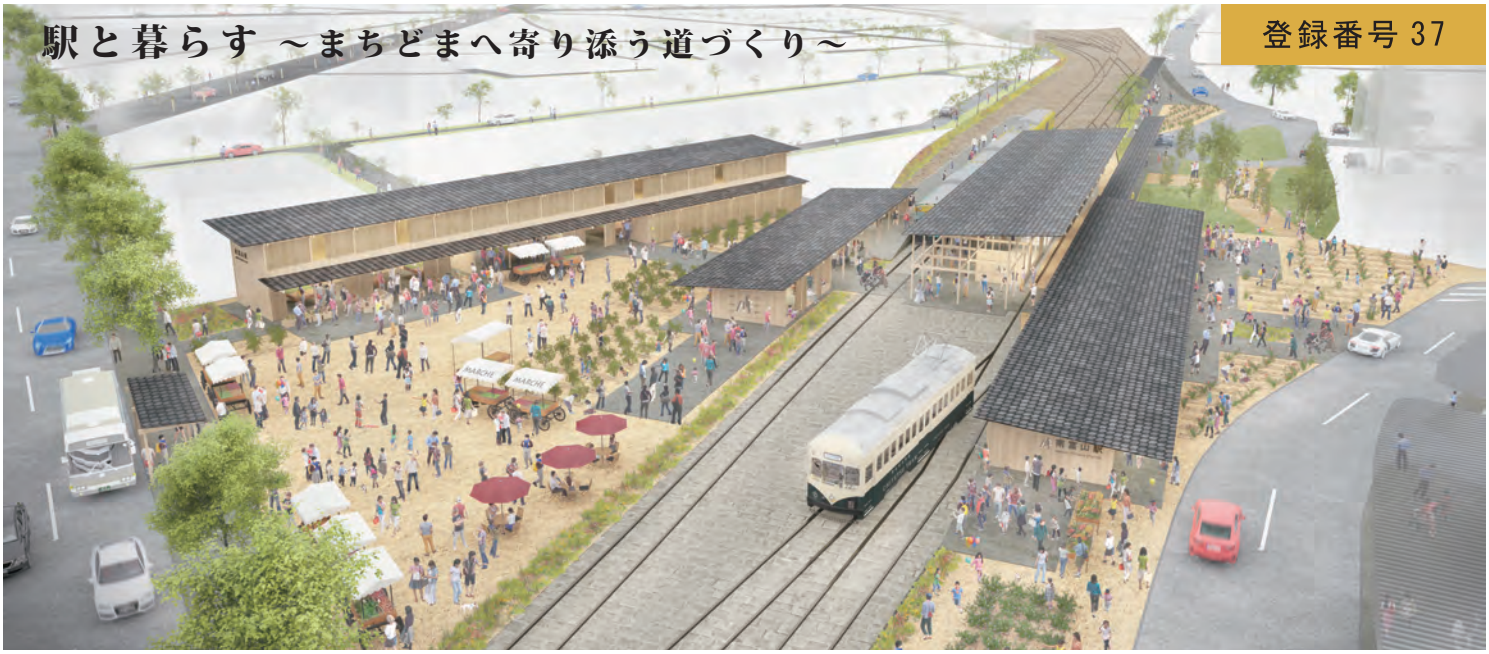
駅と暮らす ～まちどまへ寄り添う道づくり～

登録番号 37



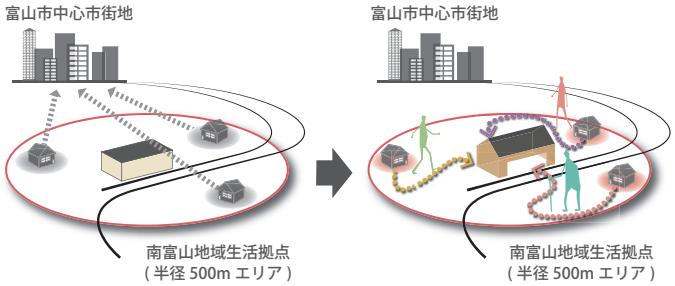
提案方針

◆交通拠点に特化した駅前を人の空間へ転換

南富山駅は交通結節点として高いポテンシャルを持つ駅です。しかし、駅・駅前空間は送迎用駐車場はあるのに道路に歩道がないなど、車優先の空間となっています。そこで、利便性を保ちつつ、人が自然と集まり、佇み、食事や勉強、電車を待つことが出来る場所を創出し、交通の核である駅前を、町の核に転換します。

◆核に繋がる人のための道づくり

駅・駅前の再編のみでは、駅施設や公共交通の利用促進は不十分です。団子の外側と街の核とが魅力的かつ安全でバリアフリーなネットワークで繋がる必要があります。そのため、居住地域圏内から核に繋がる、人のための歩行空間をつくります。



提案内容

◆『まちどま』

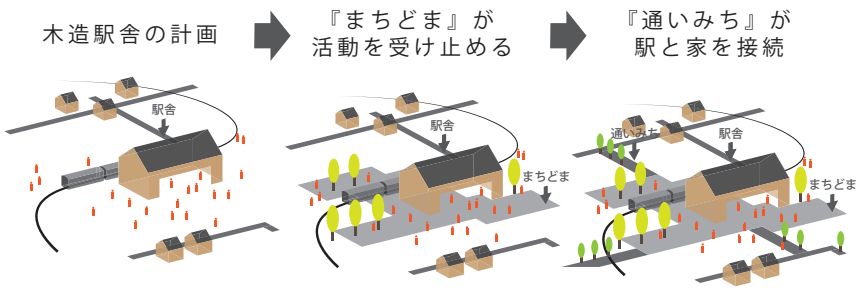
かつて家と町をつなぐ中間領域であった『土間』。地域の核である駅舎の屋内外に『まちどま』を設け、地域住民のさまざまな活動を受け入れます。

◆『通いみち』

『まちどま』につながる道を安全で快適に歩行できる空間に変えることで、道の積極的な利用を促します。快適で居心地のよいアクセスが確保されることで駅と家が密接につながり、駅での活動が生活の一部となります。

◆『駅周辺交通機能』

交通結節点としての駅の利便性を高めつつ、地域住民が日常的に利用しやすくするため、通過交通対策やK&R、バス・タクシー乗り場の再配置を行います。



まちどまについて

◆土間で繋がる居場所

駅にはこどもからお年寄りまで誰もが活躍できる居場所があり、“土間”によってゆるやかに繋がっている。

◆公共交通と人の居場所が広場の中心

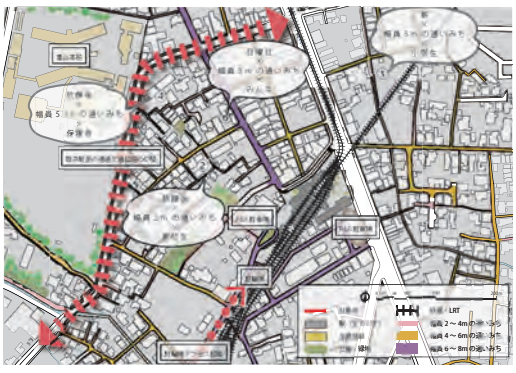
LRT、地鉄、バス、タクシー、自家用車、すべてが新しい南富山駅前にアクセス可能。

マルシェの風景。土間が屋内外をつなぐ。

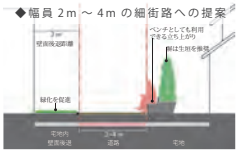
こどもカフェの様子。地域の目がこどもを守る。

通いみちについて

駅につながる道を抽出し、幅員ごとに異なる利用を提案します。

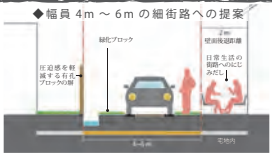


◆幅員 2m ～ 4m の細街路への提案

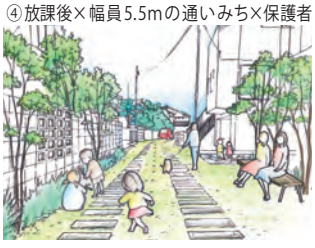


①朝×幅員 3m の通いみち×小学生

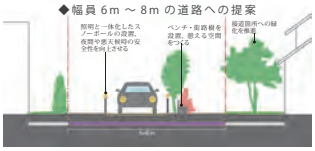
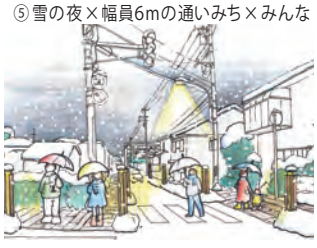
◆幅員 4m ～ 6m の細街路への提案



④放課後×幅員5.5mの通いみち×保護者



◆幅員 6m ～ 8m の道路への提案



⑤雪の夜×幅員6mの通いみち×みんな